

Everett

DIGITAL PIANO
DP-50

取扱説明書

このたびは、エベレットデジタルピアノDP-50をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CONTENTS

●●●● Lesson1 - Start!

1. ご使用前の準備 3
組み立てかた 3
2. 各部の名称と働き 6
操作パネル 6
リアパネル 7
3. デモ演奏を聴いてみましょう 8
4. 好きな音色で演奏しましょう 9

●●●● Lesson2 - Try!

1. メトロノームに合わせて弾きましょう 10
2. ベースを入れて演奏しましょう 11
3. 音程を変えて演奏しましょう 12
4. 他の楽器と音程を合わせましょう 13

●●●● Lesson3 - Challenge!

1. 自分の演奏を録音しましょう 14

MIDI機能について 16

MIDIインプリメンテーションチャート 18

故障かな?と思ったら 19

DP-50の仕様 19

オプション(別売品) 19

サービスと保証 20

取扱い上の注意

設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に熱い場所、温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

お取り扱い

次のようなご使用は、故障や、外装を傷める原因となりますのでご注意ください。

- 物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱う。
- 汚れた手や濡れた手で触る。
- 重いものをのせる。
- ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。
- 内部を開けたり、改造する。(改造後の保証はいたしかねます。)

デジタルピアノの上にもものを置く場合の注意

次のようなものをデジタルピアノの上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を痛める原因となりますのでご注意ください。

- 水の入った花瓶や鉢
- 塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品
- 誤って水やその他の液体をこぼしたり、デジタルピアノから異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

デジタルピアノは調律の必要がありません。

外装と鍵盤のお手入れ

- お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶体で使用しないでください。
- 市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。

電源

- このデジタルピアノは日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- 落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますのでご注意ください。
- 濡れた手で電源プラグに触れると感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると断線やショートの原因となります。

接続

- デジタルピアノを外部機器と接続するときや接続コードをはずすときは、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- 電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。

他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。

Lesson 1

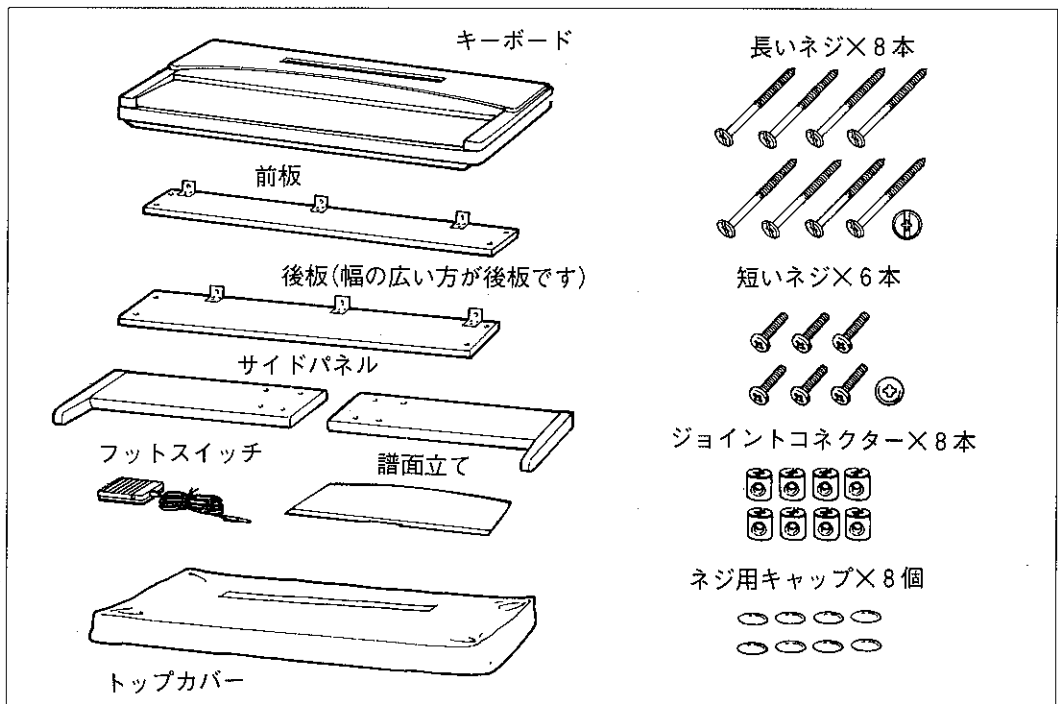
Start!

1. ご使用前の準備

組み立てかた

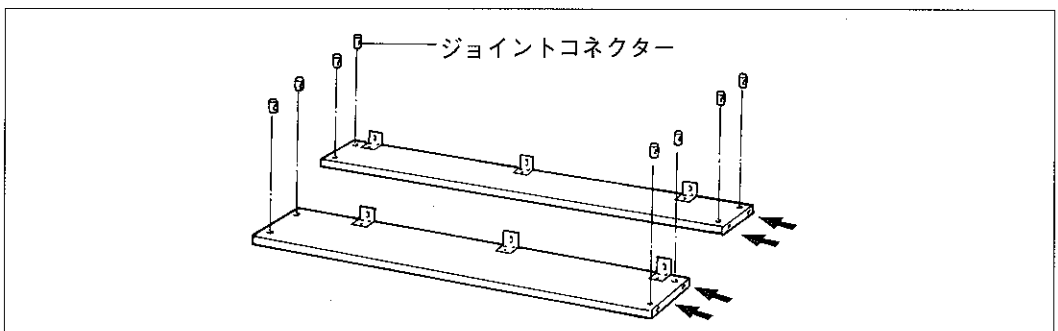
- 組み立てる前に+ (プラス) のドライバーをご用意ください。
- 部品を間違えたり、取り付けの向きを間違えないよう注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- 解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

① 箱を開け、部品がすべて揃っているか確認します



② ジョイントコネクターを前板/後板に挿入します

ジョイントコネクターの穴が前板/後板の←の位置から見えるようにして、四隅の穴に挿入します。

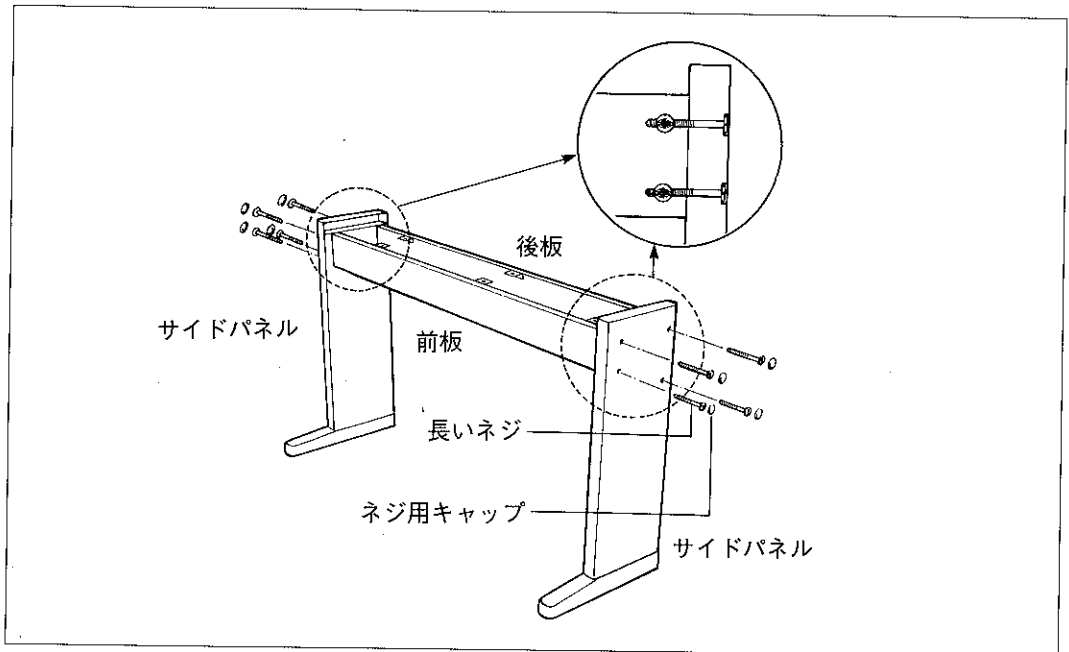


●●●● Lesson1 - Start!

3 スタンドを組み立てます

長いネジ(4本)で前板と後板それぞれを軽く締めた後、しっかり固定します。それぞれ金属部が内側になるように取り付けてください。

ネジ用キャップをかぶせます。

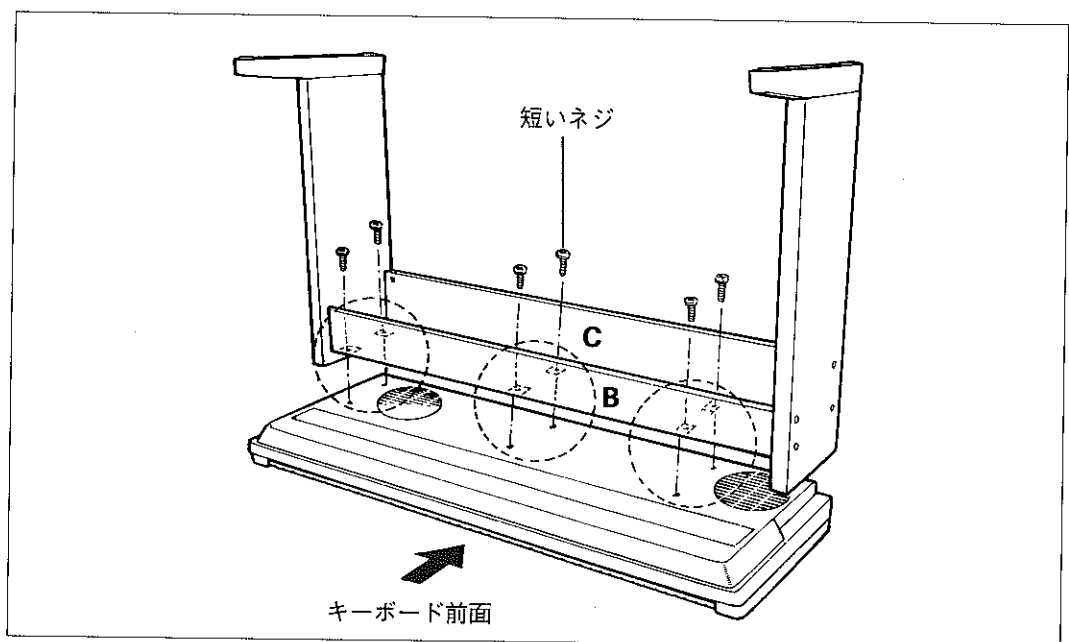


4 キーボード本体を取り付けます

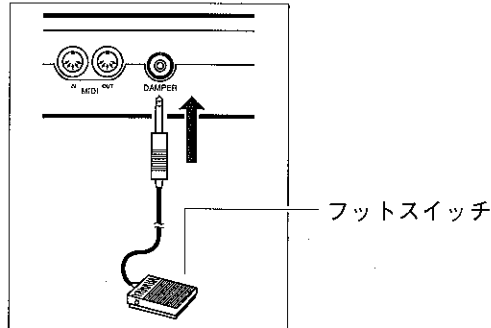
キーボードを逆(上下)にして静かに床に置きます。スタンドをキーボード本体の前後を確かめてネジ穴が合うように置きます。

短いネジ(6本)で軽く締めた後、しっかり締めてください。

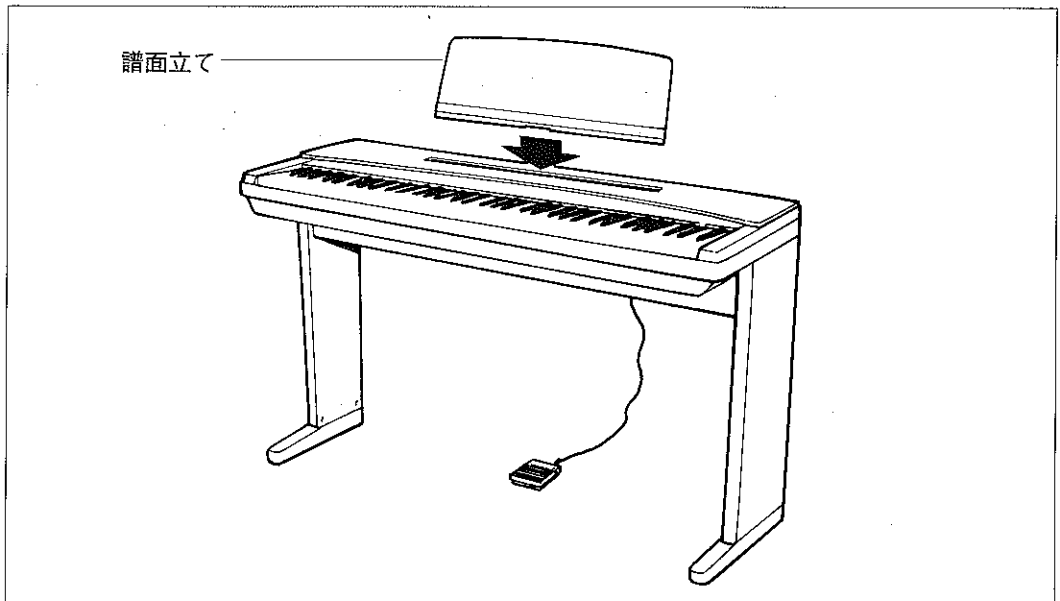
❗ ● キーボード本体を傷つけないように、一人はスタンドを押え、もう一人がネジを締めてください。



- ⑤ フットスイッチを取り付けます
フットスイッチのプラグをキーボード裏側の[DAMPER]に接続します。

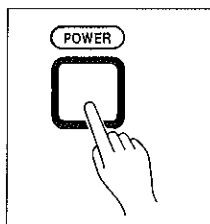


- ⑥ 譜面立てを取り付けます
キーボード上部のスロット(すき間)に譜面立てを差し込みます。



.....
Check! — 電源ON/OFF

- ① 家庭用 (AC100V) コンセントに電源プラグを差込みます
- ② 電源スイッチ (POWER) を押します

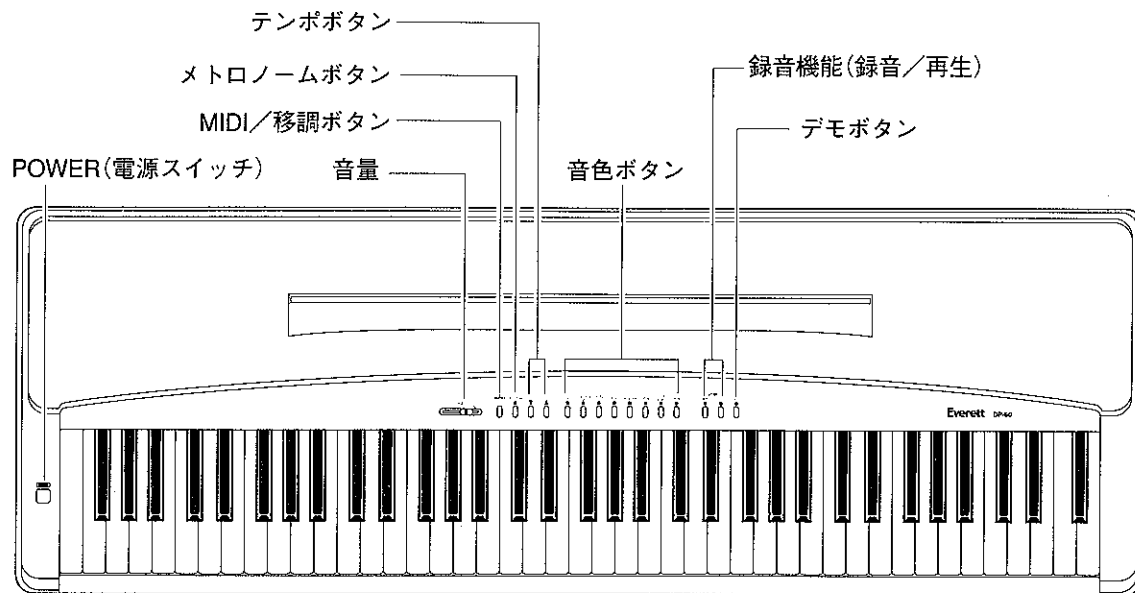


操作パネル上の ピアノ ボタンのランプが点灯しましたか? ランプが点灯すればOKです。さあ、演奏してみましょう。
演奏が終わったら、電源スイッチを押して電源を切ります。

❗ ランプが点灯しないときは、もう一度電源プラグが正しくセットされているか確認してください。

2. 各部の名称と働き

操作パネル



PHONES(ヘッドフォン端子)

■POWER(電源スイッチ)

電源スイッチです。スイッチを押すと電源がONになり、ピアノボタンが点灯します。もう一度押すと電源が切れます。

■音量

音量をコントロールします。スライダーを「小」方向に動かすと小さく、「大」方向に動かすと大きくなります。

■MIDI/移調ボタン

MIDI機能の設定や移調を設定します。

■メトロノームボタン

メトロノームボタンです。ボタンを押すとメトロノームが鳴り、もう一度押すとメトロノームが止まります。

■テンポボタン

メトロノームや録音/再生時の速さを調節します。また、音程を変更(移調)するときに使用します。

■音色ボタン

演奏のための音色(8種類)を選択します。電源スイッチをONにしたときは、「ピアノ」が選ばれています。

■録音機能(録音/再生)

演奏を録音したり、録音した曲を再生します。

■デモボタン

DP-50のデモ曲を演奏します。ボタンを押すとデモ演奏がスタートし、もう一度押すとデモ演奏がストップします。

■PHONES(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを使うとDP-50のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でもまわりに迷惑をかけずに練習することができます。

リアパネル.....



■OPTIONAL IN/OUT(オプション入出力端子)

音を入出力するための端子です。キーボードアンプやステレオなどに接続して、より大きな音を鳴らしたり(OUT)、ほかの楽器やカセットテープレコーダーの音をDP-50の音といっしょにDP-50のスピーカーで鳴らす(IN)ことができます。

■MIDI IN/OUT(MIDI端子)

MIDI機器と接続する端子です。端子には、MIDI情報を受け取るIN端子と送り出すOUT端子があります。

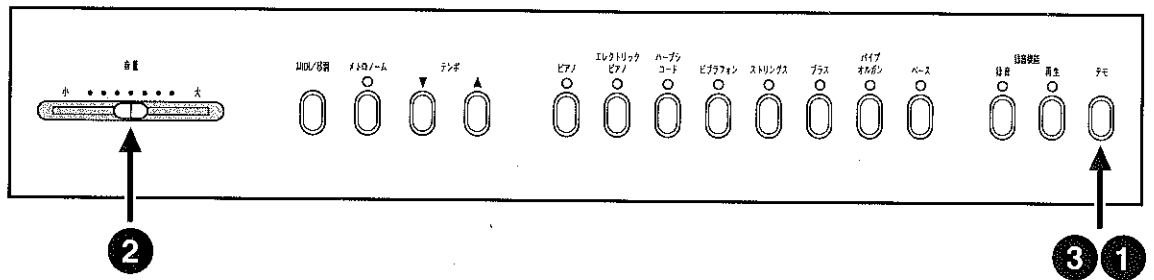
■DAMPER(フットスイッチ接続用端子)

付属のフットスイッチを接続する端子です。

3. デモ演奏を聴いてみましょう

DP-50には以下の曲の短いデモ演奏が4曲入っています。聴いてみましょう。

- ・「24の前奏曲15番変ニ長調雨だれ(ショパン)」..... ピアノ
- ・「調子の良い鍛冶屋(ヘンデル)」..... ハープシコード
- ・「アラバスク(ドビッシェ)」..... ピアノ
- ・「フーガト短調(バッハ)」..... パイプオルガン



1 **デモ** ボタンを押します
 4曲メドレーでデモ演奏がスタートします。
 デモ演奏中、**音色** ボタンを押すといろいろな音色でデモ演奏を聴くことができます。また、**テンポ** ボタンを押してテンポを変えることもできます。

2 **音量** で音量を調節します
 音量スライダーを「小」方向に移動すると小さく、「大」方向に移動すると大きくなります。

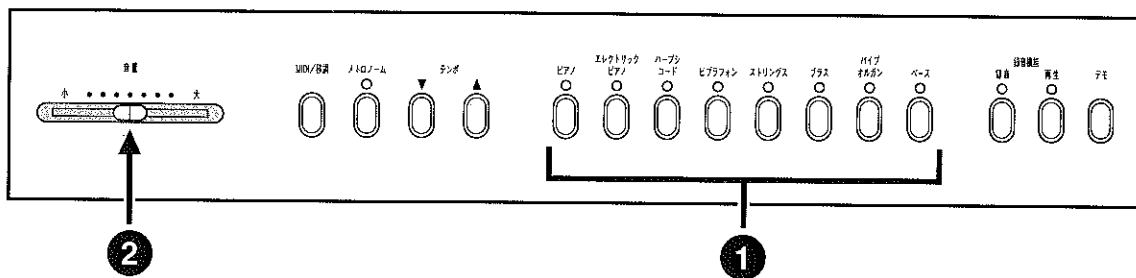
3 **デモ** ボタンを押します
 デモ演奏がストップします。

? ●デモ演奏中に音色やテンポを変更することができます。ただし、音色は曲の変わり目で自動的に元の音色に切り替わります。テンポは、デモ曲の最初にくると自動的に元のテンポに変わります。

4.好きな音色で演奏しましょう

DP-50には8種類の音があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

- ・ピアノ ・エレクトリックピアノ ・ハープシコード ・ビブラフォン
- ・ストリングス ・ブラス ・パイプオルガン ・ベース



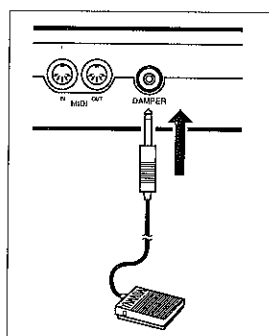
1 **音色** ボタンを押します
電源を入れたときはピアノの音色です。好きな **音色** ボタンを押してください。選ばれた音色の上のランプが点灯します。

2 **音量** で音量を調節します
音量スライダーを「小」方向に移動すると小さく、「大」方向に移動すると大きくなります。

3 **演奏** します
好きな曲を弾いてみましょう。鍵盤を弾く強さによって音色が変化します。

- 最大同時発音数は8音までです。ただし、下記の場合には最大同時発音数が異なります。
 - ・メトロノーム使用時…7音まで
 - ・ベーススプリッドモード使用時…左手鍵域最大2音、右手鍵域最大6音まで
- 音色によっては、鍵盤上のいくつかのポイントで音色に微妙な差が生じることがあります。本体の異常ではありません。

.....
演奏を楽しむために！ —— 音に余韻をつける



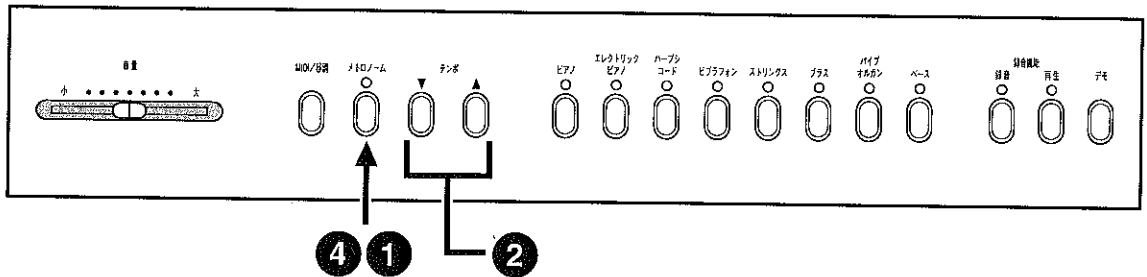
ダンパーは、ピアノのダンパーペダルを踏んだ時のように、音に余韻をつける効果です。ダンパーペダル(フットスイッチ)を踏むと鍵盤から指を離しても音がすぐ切れず、音を豊かに響かせることができます。ダンパーペダルを離すと、それまで持続していた余韻が消えます。

Lesson 2

Try!

1. メトロノームに合わせて弾きましょう

ピアノの練習時などに、メトロノームに合わせて演奏してみましょう。



- ① **メトロノーム** ボタンを押します
メトロノームがスタートします。
電源を入れたときは、テンポは♩=120です。
- ② **テンポ** ボタンで速さを調節します
▼ ボタンを押すとテンポが速くなり、▲ ボタンを押すとテンポが遅くなります。ボタンを押し続けると、連続してテンポが変わります。
▲ ボタンと ▼ ボタンを同時に押すと、テンポは♩=120に戻ります。
- ③ **演奏** します
メトロノームに合わせて弾いてみましょう。
- ④ **メトロノーム** ボタンを押します
メトロノームがストップします。

✎ ● **テンポ** ボタンを押した回数でおよそのテンポを知ることができます。
まず、▲ ボタンと ▼ ボタンを同時に押してテンポを♩=120に戻し、
テンポ ボタンを押した回数を数えながら下表で調べてください。

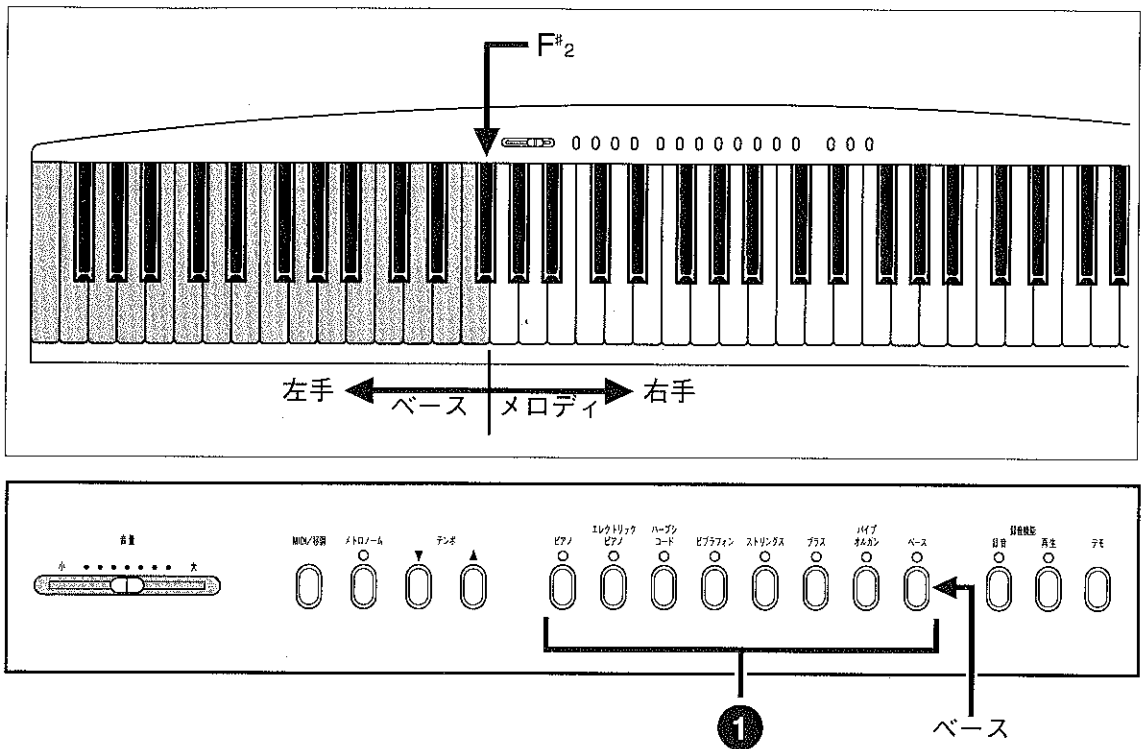
32	36	40	44	48	52	60	64	66	68	70	72	74	76
78	80	82	84	86	88	90	92	96	98	100	102	104	106
108	110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	132	136	140
144	148	152	156	160	168	176	184	192	200	208	216	224	232
240	248	256	264	272	280								

●メトロノーム音量

メトロノームの音量は5段階で調節することができます。**メトロノーム** ボタンを押しながら
テンポ ▲ ボタンを押すとメトロノームの音量が大きくなり(2段階)、**メトロノーム** ボタンを押しながら
テンポ ▼ ボタンを押すと、メトロノームの音量が小さくなり(2段階)ます。
メトロノーム ボタンを押しながら **テンポ** ▲ ▼ ボタンを押すと元の音量に戻ります。

2. ベースを入れて演奏しましょう

DP-50には、メロディ音色を右手で、ベース音色を左手で演奏できる機能(ベーススプリッドモード)があります。鍵盤の「F#₂」を境にメロディとベースに分けて、それぞれの音色で演奏を楽しむことができます。



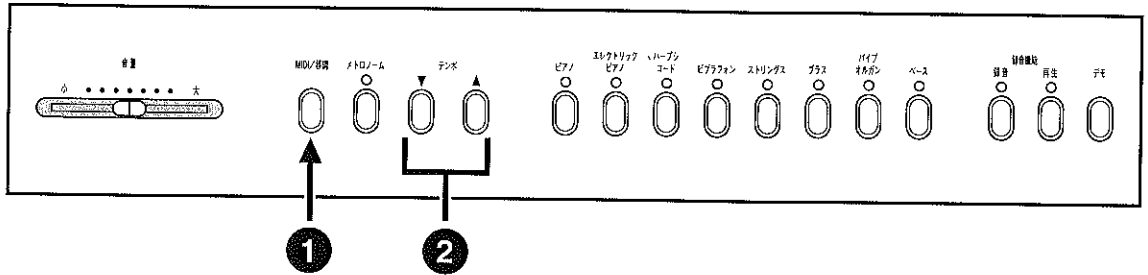
① **ベース** ボタンを押しながら、メロディ（右手）で使用する音色ボタン（たとえば **ピアノ** など）を押します
2つの **音色** ボタンのランプが点灯して、ベーススプリッドモードになります。

② **演奏します**
好きな曲を弾いてみましょう。左手で弾くキーはベース音色で、右手で弾くキーは手順①で指定した音色で演奏を楽しむことができます。
音色 ボタンをどれか1つ押すと、ベーススプリッドモードが解除されます。

● **ダンパー**は、ベース（左手）音色にはかかりません。メロディ（右手）のみです。

3. 音程を変えて演奏しましょう

歌う人の声の高さに合わせて音程を変えたり、弾いている曲の音程を変更することができます。音程を変更(移調)して演奏してみましょう。



- 1** **MIDI/移調** ボタンを押します
電源を入れたときは標準の音程です。
- 2** **MIDI/移調** ボタンを押したまま、**テンポ** ボタンで移調します
-6半音~+6半音の範囲で音程を変更できます。**▼** ボタンを押すと下がり、**▲** ボタンを押すと上がります。
MIDI/移調 ボタンを押したまま、**▲** ボタンと**▼** ボタンを同時に押すと、標準の音程に戻ります。
- 3** **演奏します**
好きな曲を弾いてみましょう。

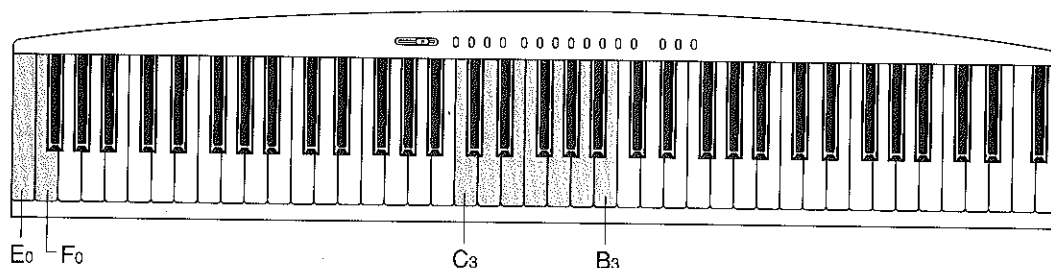
4. 他の楽器と音程を合わせましょう

アンサンプルのときなど、他の楽器と音程を正確に合わせて演奏することができます。
音程は、-約50～+50セントの範囲で設定できます。(半音=100セント)

音程を上げるとき

ミ(E₀)とファ(F₀)の鍵盤を同時に押しながら、ド(C₃)～シ(B₃)の間のいずれかの鍵盤を押します。

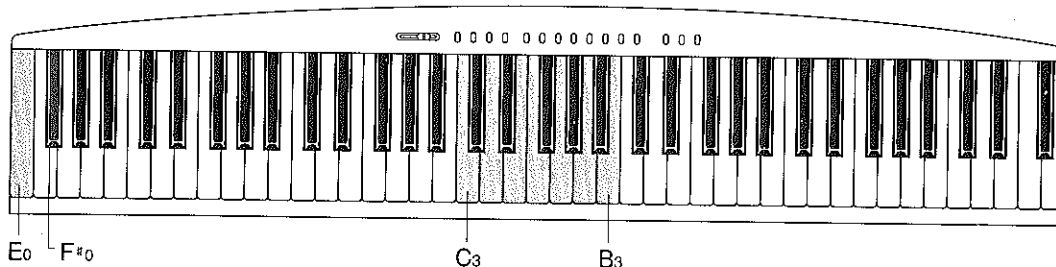
1回押すごとに少しずつ(約3セント)音程が上がります。音を聴きながらこきざみに音程を上げ、他の楽器と合わせてください。最大で+50セント音程が上がります。



音程を下げるとき

ミ(E₀)とファ#(F#₀)の鍵盤を同時に押しながら、ド(C₃)～シ(B₃)の間のいずれかの鍵盤を押します。

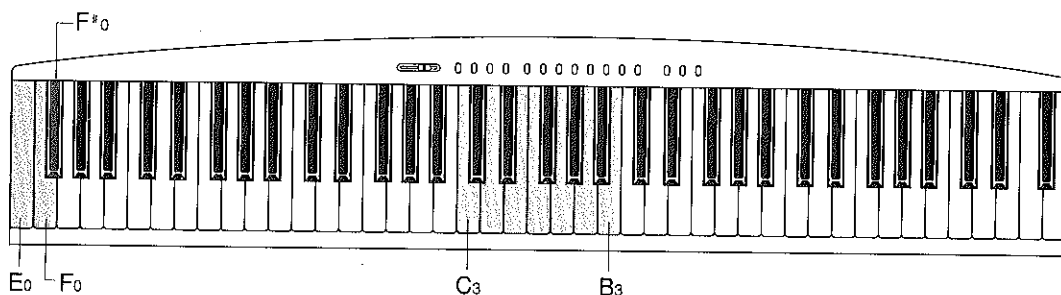
1回押すごとに少しずつ(約3セント)音程が下がります。音を聴きながらこきざみに音程を下げ、他の楽器と合わせてください。最大で-50セント音程が下がります。



標準の音程に戻すとき

ミ(E₀)とファ(F₀)とファ#(F#₀)の鍵盤を同時に押しながら、ド(C₃)～シ(B₃)の間のいずれかの鍵盤を押します。

電源を入れたときは、標準音程(A₃=440Hz)です。

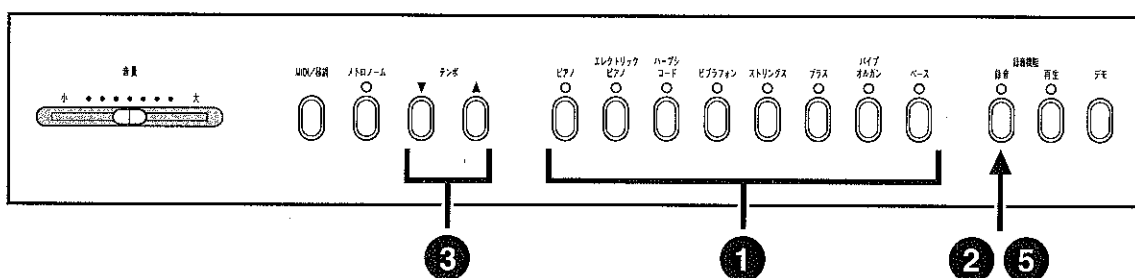


Lesson 3

Challenge!

1. 自分の演奏を録音しましょう

DP-50には、自分の演奏を録音し、再生することができる録音機能があります。自分の演奏を聴いたり、伴奏パートを録音して後からメロディパートを再生に合わせて弾いたり、アンサンブルサウンドを楽しむことができます。



- 1** **音色** ボタンを押します
演奏に使用したい音色を選びます。
- 2** **録音** ボタンを押します
録音 ボタンを押すとランプが点灯して録音待機状態になり、メトロノームが鳴り出します。
- 3** **テンポ** ボタンでメトロノームの速さを調節します
▼ ボタンを押すとテンポが速くなり、▲ ボタンを押すとテンポが遅くなります。
なおメトロノームを使用しないときは、**メトロノーム** ボタンを押してください。(この場合も、メトロノームランプは設定されたテンポで点滅し続けます。)
- 4** **演奏** します
演奏を開始すると同時に録音が始まります。**録音** ボタンのランプが点滅し、録音していることを示します。
- 5** **録音** ボタンを押します
演奏が終わったら、**録音** ボタン(または**再生** ボタン)を押して録音を終了します。

- 録音できる音数は最大約1300音ですが、ダンパーペダルなどを使ったときは少なくなります。
- 録音は、演奏をはじめタッチの強弱、ダンパーペダルの入/切、音色やテンポの変更、ベーススプリッドモードの設定なども記録されます。ただし、メトロノームの入/切は記録されません。
- DP-50の記憶容量（メモリー）が一杯になると、自動的に「録音」ボタンのランプが消灯し録音が終了します。ただし、ランプが消灯するまでの演奏は録音されています。
- 録音した曲は、電源を切っても約1週間記憶されています。保存したいときは、最低1週間おきに電源を入れるようにしてください。（MIDI機能を使って外部のシーケンサーに演奏データを記録することもできます。16ページの「MIDI機能について」をご参照ください。

.....
演奏を楽しむために！ —— 録音した曲を再生する

① 「再生」ボタンを押します

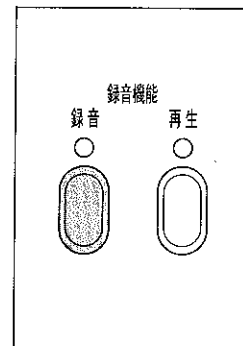
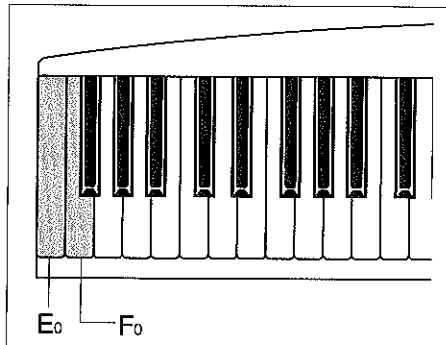
プレイボタンのランプが点灯し、録音した曲が再生されます。再生している曲を伴奏に、アンサンブルを楽しんだり、連弾の練習をすることができます。
もう一度「再生」ボタンを押すと再生がストップします。

録音した曲が終了すると、自動的に再生が終了します。再度録音しない限り、「再生」ボタンを押すと何度でも録音した曲を聴くことができます。

- 再生している曲の音色やテンポを変えることはできません。
- 再生している曲を含めて、DP-50の最大発音数を越えることはできません。

録音した曲の削除

ミ (E₀) とファ (F₀) の鍵盤を同時に押しながら「録音」ボタンを押すと、録音した曲を削除することができます。



MIDI機能について

DP-50は、MIDI機能を持つデジタルピアノです。ここでは、MIDIの基礎知識の一端を紹介します。

*MIDI(ミディ)という言葉は「Musical Instrument Digital Interface」の略で、「楽器間のデジタル通信」という意味です。

MIDIでできること

1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードから同時に音を出すことができます。また、音色の切り替えやダンパーペダルの入/切など、さまざまな効果もコントロールできます。

*機種によりMIDIでコントロールできる内容は異なります。接続する機種に共通するMIDI機能のみコントロールできます。

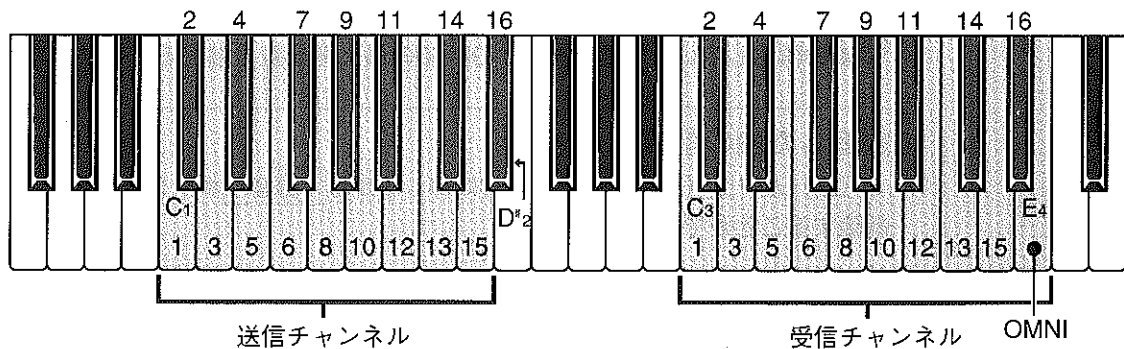
コンピューターやシーケンサーに演奏内容をMIDIで記録すると、MIDI楽器に自動演奏させることができます。(MIDIの演奏内容を記録する機器を、一般にシーケンサーと呼びます。)

MIDIチャンネル

2台の楽器を専用のMIDIケーブルでつなぐと、ケーブルを通じて楽器から楽器へMIDI情報を送り、情報を受けた楽器はそれによって動きます。MIDI情報は指定されたチャンネルで送受信されるため、MIDI情報を送る側と受け取る側で同じチャンネルに合わせておく必要があります。MIDIケーブルが接続されていても、このチャンネルが合っていないと送る側からのMIDI情報に受け取る側は反応することができないのです。

送る側のチャンネルを「送信チャンネル」、受け取る側を「受信チャンネル」と呼び、それぞれ1～16までの16チャンネルあります。また受信チャンネルには、これ以外に、すべての送信チャンネルのMIDI情報を受け取る「OMNI(オムニ)」モードがあります。

MIDIチャンネルの設定



■送信チャンネルの設定

MIDI移調 ボタンを押しながら、チャンネルに対応するC₁～D[#]₂の鍵盤を押します。
電源を入れたときは、送信チャンネルは1に設定されています。

■受信チャンネルの設定

MIDI移調 ボタンを押しながら、チャンネルに対応するC₃～E₄の鍵盤を押します。
電源を入れたときは、受信チャンネルはOMNI(オムニモード)に設定されています。

MIDI機能

■ローカルコントロール

DP-50の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すかどうか設定します。

ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤を弾いても音が出なくなります。DP-50から音を出さずに、コントロールしている相手の音だけを出すときにオフに設定します。

MIDI/移調 ボタンを押しながら、**ピアノ** ボタンを押します。

ピアノボタンのランプが点灯するとオフの状態です。電源を入れたときは、オンに設定されています。

■プログラムチェンジ・キャンセル

音色切り換えのデータを送受信するかどうか設定します。

プログラムチェンジ・キャンセルをオンにすると、音色切り換えのデータは送信できません。また、相手から音色切り換えのデータを受け取っても無視します。

MIDI/移調 ボタンを押しながら、**エレクトリックピアノ** ボタンを押します。

エレクトリックピアノボタンのランプが点灯するとオンの状態です。電源を入れたときは、オフに設定されています。

■コントロールチェンジ・キャンセル

ダンパーペダルの入/切を送受信するかどうか設定します。

コントロールチェンジ・キャンセルをオンにすると、ダンパーペダルの入/切をMIDIでコントロールできなくなります。

MIDI/移調 ボタンを押しながら、**ハーブシコード** ボタンを押します。

ハーブシコードボタンのランプが点灯するとオンの状態です。電源を入れたときはオフに設定されています。

■マルチティンバー・オン/オフ

シーケンサーなどの外部機器を使って、DP-50の音色を異なった1~10のMIDIチャンネルでコントロールするための設定です。

マルチティンバーをオンにすると、複数パートのアンサンブル演奏をシーケンサーに録音し、録音した各パートの演奏をDP-50の音色で再生させることができます。

MIDI/移調 ボタンを押しながら、**ビブラフォン** ボタンを押します。

ビブラフォンボタンのランプが点灯するとオンの状態です。電源を入れたときは、オフに設定されています。

マルチティンバー・オン時の初期設定

チャンネル1	ピアノ	チャンネル6	ブラス
チャンネル2	エレクトリックピアノ	チャンネル7	パイプオルガン
チャンネル3	ハーブシコード	チャンネル8	ベース
チャンネル4	ビブラフォン	チャンネル9	ピアノ
チャンネル5	ストリングス	チャンネル10	ピアノ

■MIDIスプリット&レフト/ライトローカルオフ

DP-50のレフト(左手)/ライト(右手)鍵域を使って、外部の音源やキーボードをコントロールするかどうかを設定します。

レフト/ライトローカルオフをオンにすると、DP-50の左手/右手鍵域では音が出なくなります。

MIDI/移調 ボタンを押しながら、**ストリングス/ブラス** ボタンを押します。

ストリングス/ブラスボタンのランプが点灯するとオンの状態です。電源を入れたときは、オフに設定されています。

*F#₂から左が左手鍵域です。

■パネルデータセンド

DP-50のパネルセッティングを外部機器(シーケンサー)に送信します。

MIDI/移調 ボタンを押しながら**パイプオルガン** ボタンを押すと、パネルデータを送信します。

DP-50 MIDIインプリメンテーションチャート

1993.7.5
Version 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 設定可能	3 × *****	1 オムニオンオフ ×	
ノートナンバー	音域	28-103 *****	28-103 28-103	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH,v=1-127 × 9nH,v=0	○ v=1-127 ×	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	07 11 64 67 121	× × ○ × ×	○ ○ ○ ○ ○	ボリューム エクスプレッション ダンパー ソフトペダル リセットオールコントローラ
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0-14 *****	○ 0-14 0-14	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON/OFF オールノートOFF アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (123-125) *1 ○ ×	

備考：*1 (123) は、オムニオフ、またはマルチティンバーモード時のみ

モード1：オムニオン、ポリ モード2：オムニオン、モノ ○：あり
モード3：オムニオフ、ポリ モード4：オムニオフ、モノ ×：なし

故障かな？と思ったら

■DP-50の電源が入らない

- ・電源プラグが外れていないか確認し、確実に家庭用(AC100)コンセントに差し込んでください。

■スピーカーから音が出ない

- ・音量のスライダーを「大」方向に動かしてください。
- ・ヘッドホンを接続しているときは、ヘッドホンプラグを抜いてください。
- ・ローカルコントロールがオフになっていると音が出ません。一度電源を切って、再度電源を入れてください。

■押えた鍵盤の数だけ音がでない

- ・DP-50の最大同時発音数を越えています。P.9を参照してください。

■録音しておいたデータが消えている

- ・電源を切ったまま1週間以上経過すると、自動的に録音した演奏は消えてしまいます。もう一度録音してください。

■テンポが変わらない

- ・テンポの設定範囲を越えています。♩=32~280の範囲で変更してください。

■録音した曲が再生されない

- ・音量が下がっていないか確認してください。
- ・デモ演奏を聴いているときは、再生することはできません。**デモ** ボタンを押してデモ演奏をストップしてください。

DP-50の仕様

- 鍵盤76鍵(E₀~G₆)イニシャルタッチ付
- 音色ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、ストリングス、ブラス、パイプオルガン、ベース(ベーススプリット機能付)
- 効果ダンパーペダル(フットスイッチ)
- メトロノームメトロノーム、テンポ ▲/▼
- 録音機能録音、再生(録音容量 最大約1,300音)
- デモ曲デモ(4曲メドレー)
- コントロールパワー、音量、MIDI/移調、ピッチ
- 付属端子PHONES(ヘッドフォン)、DAMPER(ダンパーペダル)、MIDI IN/OUT、OPTIONAL IN/OUT (L/R)
- 付属品譜面立て、トップカバー、フットスイッチ(ダンパーペダル)
- アンプ10W(10W×1)
- スピーカー16cm×2
- 消費電力23W
- 寸法(間口)115.7cm×(奥行)39.6cm×(高さ)75.9cm
- 重量23kg
- 外装仕上げブラックフィニッシュ

*仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

オプション

- ステレオヘッドフォン HPE-3(¥3,000)、HPE-150(¥4,000)
- イス BC-6(¥5,000)

*表示の価格には消費税は含まれていません。

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申しつけください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヶ年です。(日本国内のみ有効)

●保証期間の1ヶ年を過ぎましても有償にて責任を持ってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保証期間は製造打ち切り後最低8年となっております。

保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整いたします。

■サービスのご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をもう一度お読み頂き、お確かめください。

サービスをご依頼されるときは、お名前、ご住所、電話番号などをお知らせください。またお勤めで昼間不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。

■エベレットホットライン

特販営業部

エベレット営業課

☎フリーダイヤル 0120-431-808

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付およびお預かり窓口)

北海道サービスセンター

〒064 札幌市中央区南十条西1丁目1-50 (ヤマハセンター内) TEL 011-513-5036

仙台サービスセンター

〒983 仙台市若林区御町5-7 (仙台卸商共同配送センター3F) TEL 022-236-0249

新潟サービスセンター

〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL 025-243-4321

東京サービスセンター

〒101 千代田区神田駿河台3-4 (龍名館ビル4F) TEL 03-3255-2241

首都圏サービスセンター

〒211 川崎市中原区木月1184 TEL 044-434-3100

浜松サービスセンター

〒430 浜松市上西町911 (ヤマハ(株)宮竹工場内) TEL 053-465-6711

名古屋サービスセンター

〒464 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (ヤマハ(株)名古屋流通センター3F) TEL 052-652-2230

大阪サービスセンター

〒565 吹田市新芦屋下1-16 (ヤマハ(株)千里丘センター内) TEL 06-877-5262

四国サービスセンター

〒760 高松市丸亀町8-7 (ヤマハ(株)高松店内) TEL 0878-22-3045

広島サービスセンター

〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL 082-874-3787

九州サービスセンター

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL 092-472-2134

本社カスタマーサービス部

〒430 浜松市上西町911 (ヤマハ(株)宮竹工場内) TEL 053-465-1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

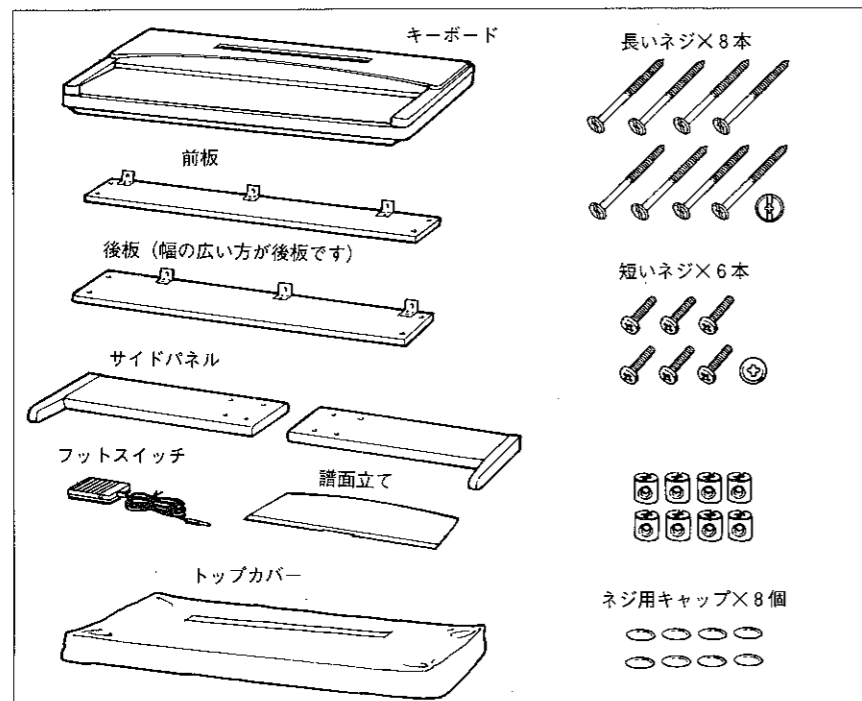
特販営業部 エベレット営業課

〒104 東京都中央区銀座7-9-18パールビル8F ☎フリーダイヤル 0120-431-808

Everett DP-50の組み立てかた

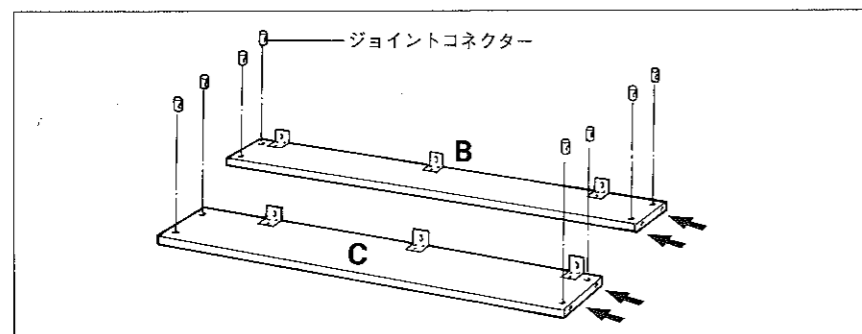
- 組み立てる前に+（プラス）のドライバーをご用意ください。
- 部品を間違えたり、取り付けの向きを間違えないよう注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- 解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 箱を開け、部品がすべて揃っているか確認します



2 ジョイントコネクターを前板/後板に挿入します

ジョイントコネクターの穴が前板/後板の←の位置から見えるようにして、四隅の穴に挿入します。

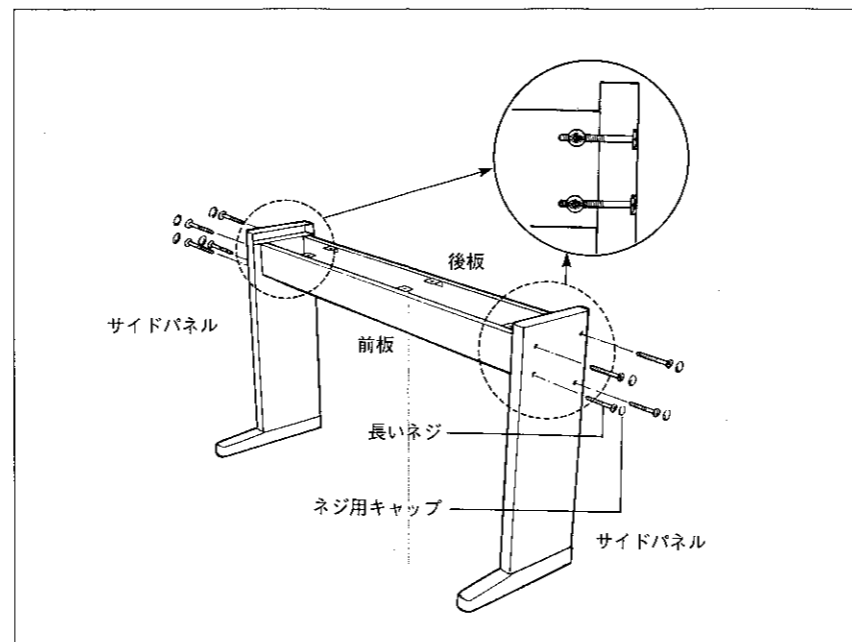


組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 【部品が余っていませんか?】→組み立て手順を再確認してください。
- 【部屋のドア等が、DP-50にあたりませんか?】→DP-50を移動してください。
- 【DP-50をゆすると、ガタガタしませんか?】→ネジを確実に締めてください。

3 スタンドを組み立てます

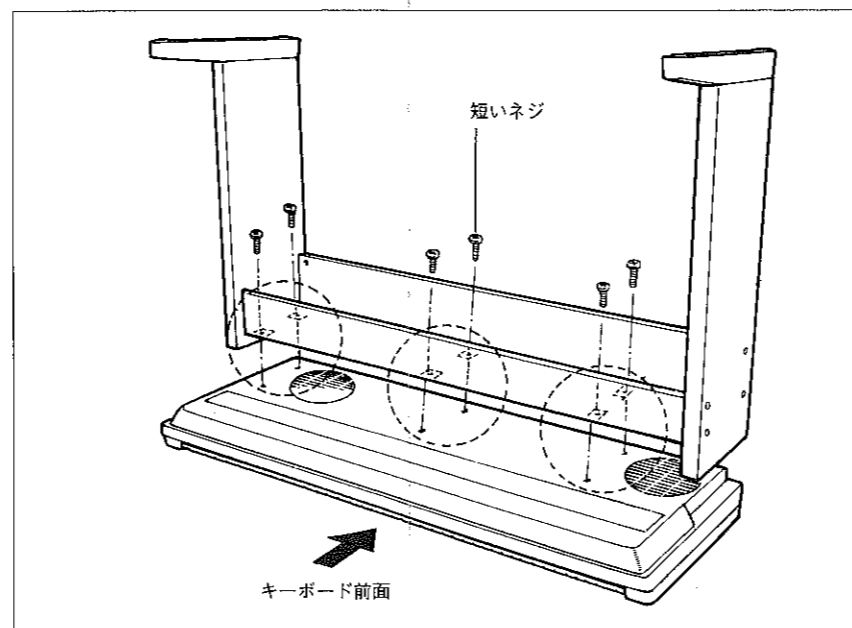
長いネジ（4本）で前板と後板それぞれを軽く締めた後、しっかり固定します。それぞれ金属部が内側になるように取り付けてください。ネジ用キャップをかぶせます。



4 キーボード本体を取り付けます

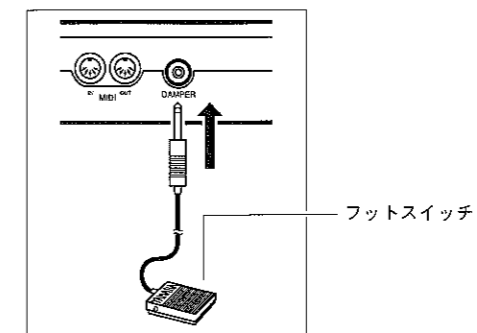
キーボードを逆（上下）にして静かに床に置きます。スタンドをキーボード本体の前後を確かめてネジ穴が合うように置きます。短いネジ（6本）で軽く締めた後、しっかり締めてください。

●キーボード本体を傷つけないように、一人はスタンドを押え、もう一人がネジを締めてください。



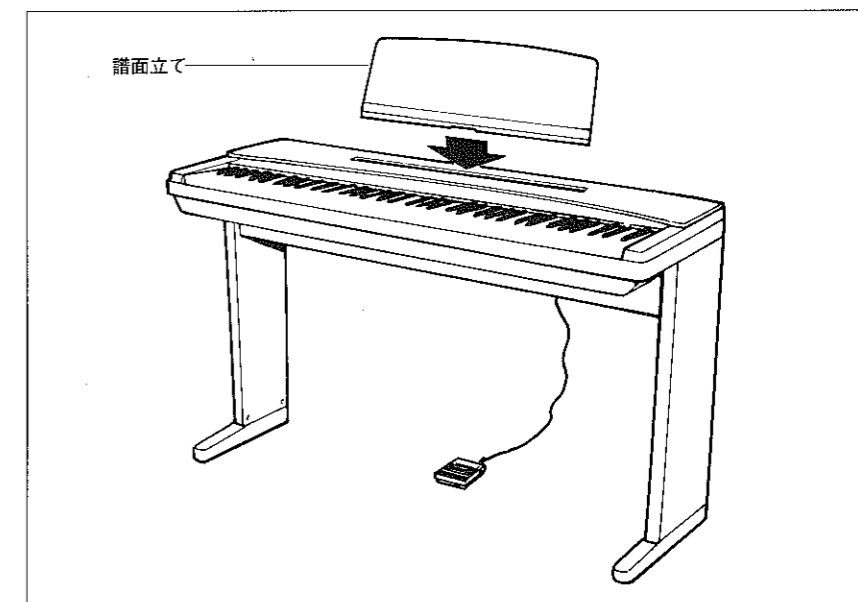
5 フットスイッチを取り付けます

フットスイッチのプラグをキーボード裏側の [DAMPER] に接続します。



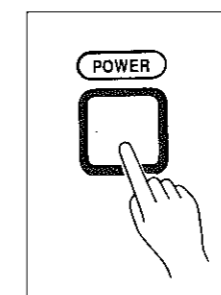
6 譜面立てを取り付けます

キーボード上部のスロット（すき間）に譜面立てを差し込みます。



Check! — 電源ON/OFF

- 1 家庭用（AC100V）コンセントに電源プラグを差込みます
- 2 電源スイッチ（POWER）を押します



操作パネル上の「ピアノ」ボタンのランプが点灯しましたか？
ランプが点灯すればOKです。さあ、演奏してみましょう。
演奏が終わったら、電源スイッチを押して電源を切ります。

●ランプが点灯しないときは、もう一度電源プラグが正しくセットされているか確認してください。